



新指定の 庄原市天然記念物

生涯学習課文化財係 ☎0824-73-1189

市教育委員会は、「吾妻山のアカイタヤ」を新たに庄原市天然記念物に指定するとともに、庄原市天然記念物「比婆山のイチイ群」の追加指定を行いました。

1. 吾妻山のアカイタヤ

アカイタヤはイタヤカエデの一種で、北海道、本州北部から中国地方にかけての日本海側の多雪地帯に主に分布する日本固有種（日本のみに分布する種）です。芽吹き時に新芽や葉柄（ようへい）が赤みを帯びることが名前の由来となっています。中国地方では、鳥取県や島根県の山地には大木が見られるものの、広島県ではめつたに見られない樹木です。

この樹は樹高約35メートル、胸高幹囲（地上から130センチメートルの高さの幹の大きさ）3.64メートルに達する巨樹で、地上約2.5メートルで6本の支幹に分かれる壮大な樹形となっていますが、このような巨樹が存在することは極めて貴重です。

国民宿舎吾妻山ロッジ駐車場のすぐ脇に自生しており、容易に観察することができます。



2. 比婆山のイチイ群

イチイは樹高15〜20メートルに達する常緑の高木で、庭木などに利用される他、材としても価値が高い樹木です。日本では北海道から九州に分布していますが、暑さに弱いことから西日本の分布は高標高地に限られます。

中国山地では高所に見られますが、比婆山御陵の頂上にはまれに見る群落形成されています。当地はイザナミを葬った地と伝えられており、そこに群生するイチイは神域の象徴として崇められてきました。このような背景から、昭和43年に、西城町（当時）は「比婆山のイチイ群」として天然記念物に指定しました。

しかし、比婆山御陵は西城町と比和町にまたがっており、比和町側にもイチイが存在することは知られていました。平成28年に庄原市教育委員会と地域の皆さんの協働により、この地域のイチイを再調査した結果（※1）、その詳細な生育状況が明らかになり、比和町側にも多数存在していることが判明しました（※2）。

比和町側に存在するイチイ群も、すでに天然記念物に指定されていた西城町側のイチイ群と同等の価値があると考えられます。これらを一体のものとして保護の万全を図るため、追加指定を行いました。



すでに天然記念物に指定されていた「比婆山のイチイ群」



追加指定された比和町側のイチイ群

参考

※1：『広報しょうばら 2016年8月号』平成28年、庄原市

※2：伊藤之敏「比婆山のイチイ群——神々の依り代となる神木」（『日本誕生の女神』平成28年、庄原市比婆山熊野神社解説本編集委員会編）76〜80ページ